

①：道場訓

- 一、吾々は心身を錬磨し確固不拔の心技を極めること
- 一、吾々は武の神髄を極め機に発し感に敏なること
- 一、吾々は質実剛健を以って克己の精神を涵養すること
- 一、吾々は礼節を重んじ長上を敬し粗暴の振舞いを慎むこと
- 一、吾々は神仏を尊び謙讓の美德を忘れざること
- 一、吾々は智性と体力とを向上させ事に臨んで過たざること
- 一、吾々は生涯の修行を空手の道に通じ極真の道を全うすること

②：極真の由来

( 千日を以って初心とし、万日を以って極めんとす。これを真の道とする。 )

③：押忍に含まれる3つの意味

( 尊敬 ) ・ ( 感謝 ) ・ ( 忍耐 )

④：空手の定義

( 点を起とし円を周とす。線はそれに付随するものなり。 )

⑤：型の三要素

( 力の強弱 ) ・ ( 技の緩急 ) ・ ( 呼吸の調節 )

⑥：空手の部位・人体急所・立ち方

( 道場稽古において、指導を受ける際に習う一般的なことが出題されます。 )

⑦：大山総裁 座右の銘

- 一、 武の道は礼にはじまり礼に終わる  
よって常に礼を正しくすべし
- 二、 武の道の深求は断崖をよじ登るがごとし  
休むことなく精進すべし
- 三、 武の道においてはすべてに先手あり  
しかれども私闘なし
- 四、 武の道においても金銭は貴いものなり  
しかれども執着すべからず
- 五、 武の道は姿なり何事においても  
常に姿を正しくすべし
- 六、 武の道においては千日を初心とし  
万日の稽古をもって極とす
- 七、 武の道における自己反省は  
常に練達への機会なり
- 八、 武の道は字のためにあるものなり  
修練にて私心を忘れるべし
- 九、 武の道においては点を起とし、円を終とす  
線はこれに付随するものなり
- 十、 武の道において真の極意は体験にあり  
よって体験を恐るべからず
- 十一、 武の道において信頼と感謝は  
常に豊かなる収穫を得ることを忘るべからず